

海外留学（短期プログラム）参加報告書

氏名	
所属	国際教養学部

プログラム名	Jyväskylä Summer School in Human Sciences
留学期間	2019/06/10～2019/06/14

1. 授業を受けて感じたこと

私が参加したクラスは、“Multilingual communication in multicultural teams” というもので、簡単に言えば、異文化間コミュニケーションについて、アイデンティティや偏見、多言語コミュニケーションなどといった様々な観点から学びました。学生 11 人、先生 3 人で、学生は香港、アメリカ、カナダ、ドイツなど様々な国から参加していました。

一言で言えば、非常に刺激のある授業で、充実した 1 週間でした。特に印象に残ったこと 3 点を以下で述べたいと思います。

1 つ目は、授業のスタイルです。授業は先生による講義ばかりでなく、学生同士のディスカッションの時間が多くとられ、学生からの意見発表を大事にする授業スタイルでした。先生が話している間でも、質問や意見を述べたい学生は手を挙げて、先生から指名されるのを待っていました。学生が積極的に発言し、先生もまた学生の意見を尊重するという授業スタイルが印象的でした。様々な意見が飛び交うため、授業が非常に面白く感じました。

2 つ目は、素敵な先生とクラスメートに出会えたということです。授業はもちろん英語で、先生や学生のほとんどは、このプログラムに参加する以前から日常的に英語を話している人ばかりでした。私は日本で英語を話す機会はあまりなく、さらに苦手意識を持っているため、授業に参加することを不安に感じていました。授業内容が理解できるか、英語で自分の意見を言えることができるか。結果的には、すべての授業内容が完璧に理解できたとは言えず、またしっかり発言できたとも言えません。しかし、上手く英語が話せなくても「英語を話そうと挑戦するだけでも大事なことだよ」と励ましてくれたり、日本語が少しできる香港から来た学生が「分からなかったら僕が通訳するから安心して」と言ってくれたり、私のたどたどしい英語を一生懸命聞いて理解してくれようとしてくれたり、本当に素敵なクラスメートに恵まれました。また先生は、朝教室に入ると毎日、“Good Morning” と挨拶して下さり、その挨拶だけで、私を大事な学生の一人として受け入れてくれていると感じ、嬉しかったのを覚えています。上手く英語が話せない、授業がちゃんと理解できているか分からないと悩み、苦しい時間もありましたが、素敵な先生とクラスメートに恵まれて、乗り越えられたと感じています。

3 つ目は、プレゼンテーションに一生懸命取り組んだことです。1 週間の授業内で、2 回のプレゼンテーションをしました。一つは、千葉大学の先生の授業アシスタントとして、アドレスタームについて発表しました。この発表に至るまで、日本でワークショップを行

ったり、先生や同じくこのコースに参加した千葉大学の同級生と何度も話し合いを行ったりと、事前準備に多くの時間を費やしました。正直なところ、ここまで時間をかけて真剣に取り組んだことが、大学生活の中であまりなかったため、やり遂げた時の達成感が非常に大きかったです。もう一つは、3グループに分かれて最終日に行った“final presentation”です。テーマは、グループのメンバーの共通点を探し、それを表した写真を撮って発表するというものでした。グループのメンバーで発表の準備をし、実際に発表した時間は楽しかったです。また、発表の後にすぐ、先生やクラスメートがフィードバックやコメントをして下さり、自分たちのプレゼンテーションの評価をすぐ聞くことができたというのは嬉しかったです。



“final presentation”の様子

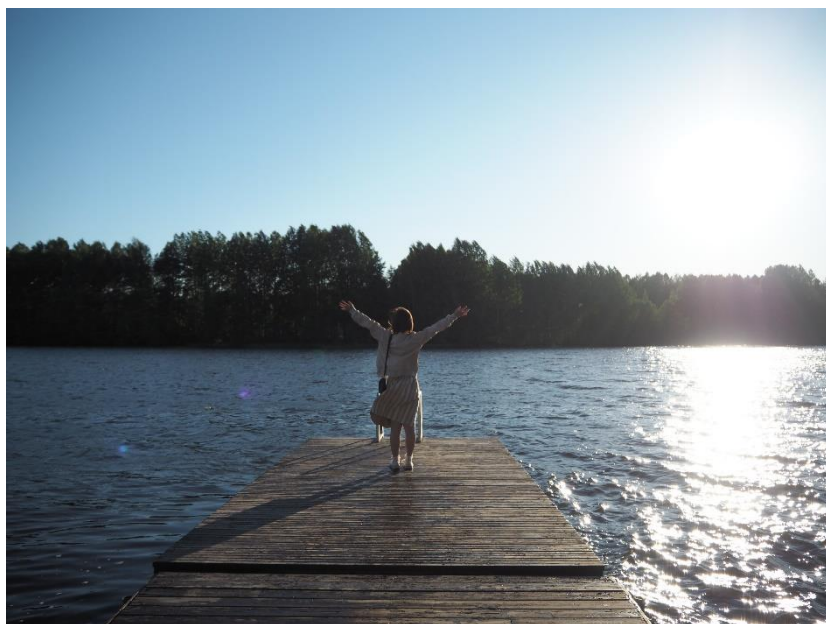
2. 授業外で感じたこと

授業外で印象に残ったことが2つあります。

1つは、チューターが存在です。1週間だけの参加にも関わらず、チューターがついてくれました。彼女は、日本に留学した経験を持っていて、日本語が上手でした。日本語が通じるというのは、私にとって安心感につながりました。初日は、大学の最寄り駅まで迎えに来てくれて、寮までの道案内や1週間生活する上での留意点などを教えてくれました。私たちが分からないであろうことや今後困るであろうことを事前に把握して、私たちに聞

かれる前に教える、サポートするという姿勢が感じられました。ユヴァスキュラ大学は、的確で丁寧なサポートを行うチューター制度が実現できていると感じました。

2 つ目は、放課後行われた“free time programme”です。サマースクール参加者のために、ほぼ毎日、アクティビティやイベントが実施されていました。特に、フィンランドのサウナ体験は、フィンランドの文化を感じることができ、BBQ は他の参加者と話す貴重な機会になりました。留学生をここまで手厚く歓迎するのは、素晴らしいことだと感じました。チューター制度も含め、留学生をサポートする姿勢がしっかりとられている大学であると思いました。



3. 留学全体を通して

サウナ体験の時の写真（上の写真がサウナの建物です）

私は大学1年生の夏休みに、2週間インドネシアに留学したことがあるのですが、その時と今回の留学とで、全く異なった点があります。それは、自分と自分以外の参加者の目的やモチベーションが同じか違うかということです。インドネシア留学の時は、語学留学というかたちで、千葉大学から約15名が参加し、みんな英語を勉強するという目的を持って臨んでいました。英語が話せるようになりたいという気持ちを、私だけでなく他の学生も抱いていました。しかし、今回のフィンランドのユヴァスキュラ大学への留学は、英語を話せるのは当たり前で、英語という語学ではなく異文化コミュニケーションという専門分野を学ぶというモチベーションを持った学生ばかりです。私だけが、英語を話すことに挑戦しようという、他の学生にとっては当たり前と捉えられていることに、立ち向かっていました。そのため、自分だけが取り残されていると感じるつらい時間もありました。しかしこれは、今までに感じたことのない大きな刺激になりました。必死にみんなに食らいついていこうと、本気で授業に臨むことができました。その分、学びは深いものになり、充実した1週間を過ごすことができたと感じています。

また、この1週間を通して、コミュニケーションスタイルについて考え直すきっかけにもなりました。英語圏のコミュニケーションスタイルは、みんなガツガツ自分の意見を言って、発言が次々に飛び交うものだと勝手に思い込んでいましたが、聞き役に回るスタイルを持った学生もいました。コミュニケーションスタイルは、話す言語に関係なく、個人それぞれであると気づきました。私は自分のコミュニケーションスタイルについて、聞き役に回るばかりで、なかなか自分の意見を言えないという悩みを持っています。しかしこれは、決して悪いだけではないと分かりました。聞くということも一つのコミュニケーションスタイルであり、恥じる必要はないと考え直すことができました。このスタイルを大事にした上で、今後、ディスカッションの中で何か一つ発言するよう努力していこうと思います。